



学校再開から3週間！…子どもたちの心の中に…

再登校が始まり3週間が経ちました。子どもたちも、少しずつ学校生活のリズムにも慣れてきていることを実感する毎日です。

しかし、ニュース等でも盛んに言われているように、長期の休校がもたらした「目には見えない子どもたちの内面の変化」に、私たち教職員をはじめ、保護者の方々も含めて、周囲の大人たちが思いをはせてあげなくてはならないかなと感じる時があります。

経験豊富な大人であれば、自分の気持ちを上手にコントロールしながら生きています。ですが、経験値の少ない子どもにとっては、頭ではわかっているけど…、とか、なんとなくやる気が起きない…という場面になることもあるでしょう。本校でも授業時数を回復するために、今は朝活動の時間（15分間）も、モジュール時間（合わせて3回で1時間授業分）として、国語や算数の授業に充てています。子どもたちにとって、これまでとは違う時間の流れで、窮屈さを感じている子の中にはいるかも知れません。「**大人たちがゆとりを持ち、子どもに寄り添うこと**」を、職員同士でも確認しながら、少しずつ学習へ向かう姿勢づくりをしていきたいと考えています。急いで^せは事を仕損じますので、一人ひとりの状態をできるだけ把握し、きめ細やかに対応できるよう心掛けていきたいと思ひます。



5年理科「メダカと微生物」



『掃除をするということ』…見習いたい姿勢！

私は、毎日、玄関掃除を担当しています。児童玄関と来客用玄関、グラウンドに出るまでのレンガ張りのエントランスを、5年生の当番さん（一人）と一緒にするのですが、最近とても素晴らしい場面に出会いました。普段は時間がなくて、なかなか手の回らないグレーチング（靴の泥を落とすためにあるステンレス製のざら板）の下に、枯れ葉や土や砂がたまっているのを見つけたその日の当番さんは、「校長先生、これを上げてください。」と。

（板は重いので、教員に頼むことがルールになっています。）

「お、今日はそこもやるんだね、わかった!」と、重たい板を持ち上げると、休校中にたまった砂やごみがたくさんありました。

風の強い日で、まとめるそばからゴミはまた飛ばされて、うまくまとめられません。枯れ葉が塵取りから落ちて飛ばされても、一生懸命にやっています。時間がかかったけどやっときれいになりかけてきたので、「よし、じゃあきれいになったし、今日はそこまでいいよ。」と私が言うと、「いえ、まだ、この穴の中が残っています。もうちょっとだからきれいにしたいです!」と。

見ると、真ん中の排水管部分にくもの巣がはられていたのか、数枚の枯れ葉が引っかかっていました…。ですが、さっきまで使っていたシュロボウキでは、穴が小さくて中に入りません。「う～ん、どうすれば取れるかなあ…?」と首をかしげて困っているの、掃除用具ロッカーをのぞくと、多分その場所用の小さいホウキと塵取りがありました。「これ使ってみる?」と手渡すと、「ありがとうございます!これだ!これできれいになる!」と喜んで、その小さい穴の中まできれいに掃除してくれました。私は、頭が下がりました。

「掃除をする」ということは、この5年生のように思ってしてくれることだな、と思ったので記させていただきました。大きな学校を少ない人数で、ですが、一生懸命きれいにしようと、みんなで頑張っています。